

令和5年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

*「評定」の基準 A：十分達成できた、B：概ね達成できた、C：達成できなかった

| 自己評価 | | | | | | | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|---|---|-------|--------|--|---|----|-----------------|
| 本校のグランドデザイン | 本年度の重点課題 | 担当 | 番号 | 具体的目標 | 評価指標と活動計画 | 評価 | |
| 1 自分とむきあう力の育成 ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する | ①主体的・対話的で深い学びの実現 ②キャリア教育の充実 ③生徒主体の活動の充実 ④GIGAスクール構想の推進 | 企画推進課 | ① | ・新学習指導要領に従い、観点別評価を定着させることにより、主体的・対話的で深い学びを実現させる。 | 活動計画 ・観点別評価のあり方を教員で共通理解を図り、定期考査の問題や通知表の表記など、新しい評価の仕方を定着させる。 ・全校集会や学年集会において、3観点評価について周知する。 | | |
| | | | | | 評価指標 ・観点別評価に関する設問で理解している割合を70%以上にする。 | | |
| | | | | | | | |
| 2 人とむきあう力の育成 ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する | ⑤開かれた学校づくりの推進 ⑥働き方改革の推進 | | ③ ⑤ | ・各行事で生徒主体の活動を奨励し、保護者や地域の方にその活動を知っていただく。 | 活動計画 ・中学3年生を対象とした体験入学を実施し、本校生徒による主体的な活動を取り入れる。 ・11月のオープンスクールの広報に努め、公開授業において生徒主体の活動を取り入れる。 | | |
| | | | | | 評価指標 ・体験入学参加生徒数の目標を250名以上とする。実施できない場合は、ホームページ等で学校紹介を行う。 ・オープンスクール来校者の目標を250名以上とする。 | | |
| | | | | | | | |
| 3 世界とむきあう力の育成 ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | | | ⑤ | ・保護者の協力を求め、学校と家庭との連携を密にして情報交換を行う。 | 活動計画 ・PTA総会実施日に授業参観や進路説明会、学級懇談や個人面接を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解していただく。 ・「松高だより」を発行し、学校活動について保護者に理解していただく。 | | |
| | | | | | 評価指標 ・12月の保護者アンケートで満足度80%を目指す。 ・役員会を年4回以上行い、情報を積極的に提供する。 ・PTA総会の参加人数を150名以上とする。 ・「松高だより」を年6回発行する。 | | |
| | | | | | | | |
| キャリア支援課 | | | ②-1 | ・生徒の実態に応じた学力向上策を検討し、きめ細かな進路指導を推進するとともに、将来に向けた進路目標の早期設定を支援する。 | 活動計画 ・松高セミナーや夏季補習、冬季補習を通し、時間を有効活用し自主的に学習に取り組む姿勢を身につける。校内学力テストや校外模擬試験等に意欲的に取り組む。 | | |
| | | | | | 評価指標 ・進路決定率を100%とする。 | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|---|--|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | ②-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理能力やプランニング能力を鍛え、自ら未来を切り開く能力を身につける。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート（松高・未来のための手帳、Classsi）を活用し、体験の記録と見直しや振り返りを行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート（松高・未来のための手帳、Classsi）を活用して受験対策を行った生徒を80%以上にする。 | | | |
| | | キャリア支援課（図書） | ② | <ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心を高め、読解力と思考力を養い、広い視野を身につける。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりで幅広い資料を紹介するとともに様々なテーマの企画展示を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりを年10回発行し、企画展示を年間5回以上行う。 | | |
| | | ICT支援課 | ① ⑤ ④ | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員にタブレットを活用してもらい、生徒の探究心や主体性を養うことにつなげる。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員を対象に教育クラウドの研修を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育クラウドの授業使用割合について、A:50%以上B:30%~49% C:30%未満とする。 | | |
| | | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを随時更新することで、地域の人たちに小松島高校の活動をより知ってもらう。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの職員会議でホームページの記事の書き方を説明する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新回数について、A:160回以上、B:140~159回、C:140回未満とする。 | | |
| | | こころとからだの支援課 | ③-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な生活習慣を確立する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主自律の日に自分の生活習慣を振り返る。 ・手洗い、うがいの習慣を継続させる。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席を前年度より少なくする。 | | |
| | | | ③-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・健やかなこころとからだをつくる。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高めるため、人権作文を生徒全員が書くよう指導する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権作文の提出を90%以上にする。 | | |
| | | 活動創生課 | ③-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に加入している生徒一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の年間活動計画と目標をもとに、個人目標を設定する。 ・松高・未来のための手帳を活用し、月ごとに活動の記録や感想、学んだこと等を記入する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価アンケートで「充実した活動ができている」 | | |

| | | | | | | |
|---|--|--------|---|---|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | | | と回答した生徒が70%以上とする。 | | |
| | | ③-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会で活動計画と役割分担を決め、一人一人が個人目標を設定する。 ・毎週木曜日に活動の振り返りと次の活動の準備を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価アンケートで「充実した活動ができている」と回答した生徒が70%以上とする。 | | |
| | | ③-3 | <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまGXスクールの活動を通して、SDGsにつながる校内校外の生活環境を整える。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ホームルームで環境目標を設定し、教室に掲示する。 ・毎日の清掃と資源ごみの分別を徹底する。 ・毎週木曜日を「環境の日」とし、環境委員による分別チェックを行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまGXスクールの継続認定を受ける。 ・松高ループリック評価で「世界とむきあう」項目レベル1以上の生徒80%以上とする。 | | |
| | | ③ ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・小松島松原の育樹活動や地域のボランティア活動への参加を通して、社会貢献への意欲を持った生徒を増やす。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会やホームルーム活動でボランティア活動の意義や認証登録について説明する。 ・ボランティア推進委員が中心となって、ボランティアの案内と参加者を募る。 ・松高・未来のための手帳を活用し、活動ごとに内容や感想、学んだこと等を記入する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松原の育樹活動を5回以上実施する。 ・ボランティアの参加者を全校生徒の60%以上とする。 ・小松島市ボランティア活動貢献学生認証登録者を80人以上とする。 | | |
| | | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を通して、さまざまな災害に対応し、行動できる力を育成する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ホームルーム活動と災害別の避難訓練（うち1回は地域との連携）を実施する。 ・避難訓練後はアンケート（自己評価）を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習（ホームルール活動や避難訓練など）を3回以上実施する。 ・アンケートの回収率を80%以上とする。 | | |
| 国語科 | | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートのBゾーン以上生徒数の維持、増加を図る。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、セミナーによって基本的な学力を定着を図るとともに、生徒の主体性を引き出す授業実践を行う。 | | |

| | | | | | | | |
|---|--|--------|-----------------|---|--|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | | | <p>評価指標</p> <p>スタディサポート1回目と2回目との比較による。</p> | | | |
| | | 地歴・公民科 | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組みを通じて、学んだ内容をさらに深めるとともに、自分の考えを表現する力を身につける。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内容に即した課題を出し、自分の考えを他者に伝える活動を実施する。 | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート等を活用し、「知識・理解」「学び合う力」の項目について、できている割合を80%以上とする。 | | |
| | | 数学科 | ① ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がふりかえりながら授業を通して自分の考えを伝えることができたと実感できるように実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業で、定期的に他者に伝える場面を取り入れられるとともに、数学レポートコンクールを実施する。 | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシートで、「自分の考えを伝える」ができた割合を60%以上にする。数学レポートの提出率を80%以上にする。 | | |
| | | 理科 | ①-1 ③-1 ④ | <ul style="list-style-type: none"> ・教育クラウド(Classi、Word、Excel、Powerpoint、MetaMoJi、ClassRoom)を活用して授業でレポートを作成できる。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いてICTを活用した授業を行う。 | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでレポートを提出させる回数について、各科目 A:2回、B:1回、C:0回とする。 | | |
| | | | ①-2 ③-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習、観察等を通して表現力を育成する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目で、実験・実習・観察等を行い、結果や考察に他者に伝える活動を取り入れる。 | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の松高ルーブリックにおける評価アンケートの「人と向き合う力」の項目でレベル2到達の割合について、A:70%以上、B:50~79%、C:49%以下とする。 | | |
| | | 保健体育科 | ①-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・【保健】健康や安全について自分の考えをまとめ、自他の生活や社会を改善できる力を身につける。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに演習課題を設定し、自分の考えをまとめる。 ・学期末に演習課題から一つを選んで発表等を行う。 | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の項目について、できている割合を80%以上とする。 | | |
| | | | ①-2 ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・【体育】仲間と連携して、練習やゲームなどを展開することができる力を身につける。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術上のポイントや、ゲームの進め方を細かく指導するとともに審判法や競 | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-----|-----|---|--|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | | | <p>技の特性など、各種目への興味を高める指導を行う。</p> <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の項目について、できている割合を80%以上とする。 | | | |
| | | 芸術科 | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育み、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する授業を実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に興味・関心を持たせる教材を精選し、意欲的に表現活動ができるようにする。 ・理解を高めるためにコンテンツを用いたり、模範を示して、毎時指導方法を工夫する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートで、音・美・書の各ルーブリック評価レベル1以上の生徒を80%以上とする。 | | |
| | | 英語科 | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・英語科会において、生徒の目標設定に役立つパフォーマンステストと評価の研究を行い、生徒の粘り強い学習を促すような指導と評価の一体化をめざす。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステストの振り返りレポートを学期に1回実施する。 ・パフォーマンステスト計画を作成し、評価内容を英語科会で共有する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りレポートで、「パフォーマンステストにおいて、目的・状況・場面に応じて相手に伝えようとした」と答えた生徒が80%以上にする。 ・英語科でパフォーマンステスト計画を作成し、英語科会で評価内容を共有する。 | | |
| | | 家庭科 | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度を育成する授業を実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活に役立つ基礎的な内容を精選し、体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れる。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業での学びを家庭生活に活かすことができる生徒」の割合を90%以上にする。 | | |
| | | 家庭科 | ② | <ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育で生徒理解度を高める授業を実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会への扉」の教材を利用して生徒の理解度を高める。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育で生徒理解度を90%以上にする。 | | |
| | | 情報科 | ①-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が実社会の生活で役に立つと実感できる授業を実践する。 ・生徒が授業を通して「世界とむきあうことができた」と実感できる授業を実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りや実生活に深く根ざした内容を積極的に活用し、周囲と協働して体験的に学ぶ授業をより多く行う。 ・定期的な振り返りを行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書検定の年間 | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-----------|--|--|---|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | | <p>受検者数を30人以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの「世界とむきあう」の項目についてレベル3と答える生徒の割合を60%以上にする。 | | | | |
| | | ①-2 ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・情報Ⅰにおいて「自分とむきあう」視点で、情報分野における「情報モラル」や「プログラム」など様々な分野で問題解決ができる授業を実践する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元や気づきを多く与える授業構築のための教科会や研修会への参加を充実する。 ・第5章「活動して提案する」をもとに授業構想、実践を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業の際の自己評価欄において「できた」と答えた生徒の割合を70%以上とする。 | | | |
| | | 総合的な探究の時間 | ① ② ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・探究の見方・考え方を働かせ、生徒の興味・関心に基づく課題について、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を発見し解決していく資質・能力を育成する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心のある「問い」を立て、個人・グループにおいて研究し、その成果を発表させる。 ・関心のある分野ごとのゼミに分かれ、各分野の専門家を招き、幅広い教養の習得に結びつける。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高ルーブリックレベル2を満たす生徒を70%以上にする。 | | |
| | | 1学年 | ① ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・松高ルーブリックレベル1を満たす生徒を育成する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高・未来のための手帳の活用の充実。 ・総合的な探究の時間（PK）の充実。 ・HR活動、人権教育、学年集会の充実。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高ルーブリック自己評価アンケートによって、レベル1を満たす生徒を80%以上にする。 | | |
| | | 2学年 | ① | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実を図る。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前(5回)に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し振り返る習慣をつけさせる。 ・毎日の生活で手帳の活用が習慣化するよう働きかける。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間2時間以上の生徒を25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする（4月と9月のスタディサポートで評価）。 | | |
| | | | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会を実施する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生徒の状況や進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。必要に応じて個人面談も実施する。 <p>評価指標</p> | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | 3学年 | ①-1 ③-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を活かす取り組みをする。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生の声を記事にして3年生新聞を発行する。 | | | | | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生新聞を年間6回発行する。 | | | | | | |
| | | | | | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定や実行プラン等を松高・未来のための手帳に記録し、具体的に実現までの道筋を考えさせる。 ・日々の記録や目標に向けての進捗状況などを面接等で手帳を介して確認し、生徒の実態を分析する。 ・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前(5回)に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し振り返る習慣をつけさせる。 | | | | | | |
| | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高・未来のための手帳を活用し自己管理や学びの整理に利用した生徒の割合を70%以上にする。 | | | | | | |
| | | | | | ①-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会を実施する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。 | | | | |
| | | | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。 | | | | |
| | | | | | 管理職 | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）からの提言や提案を参考に、地域と連携した教育活動の更なる充実を図る。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年3回開催し、地域と連携した教育活動の実現に向け協議する。 | | | |
| | | | | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した教育活動（ボランティア活動や防災避難訓練など）を拡充できたか。 | | | |
| | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を推進する。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムを活用し、超過勤務月80時間以上の教職員に対して面談を行い、改善を図る。 ・校務分掌の適切な配置や業務内容の精選を行い、教職員の負担を軽減する。 | | |
| | | | | | | | <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務月80時間以上の教職員の割合を10%以下とする。 ・「業務の効率化や業務改善に取り組んでいる」の肯定的評価を75%以上とする。 | | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動組織の整備をする。 | <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の状況を定期的に調査し、部員数や活動状況 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある | <p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④G I G A スクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p> | | | | <p>に応じて、休部勧告等も含めた適正な整備を行う。</p> <p>評価指標 調査結果に基づく整備の有無による。</p> | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|

学校関係者評価

令和6年 月 日 () に開催された、第3回小松島高等学校学校運営協議会において、今年度の学校評価総括評価表について協議され、次の提言を頂いた。

| 各課・各科 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 企画推進課 | | | | | | |
| キャリア支援課 | | | | | | |
| ICT支援課 | | | | | | |
| こころとからだの支援課 | | | | | | |
| 活動創生課 | | | | | | |
| 国語科 | | | | | | |
| 地理歴史科 | | | | | | |
| 公民科 | | | | | | |
| 数学科 | | | | | | |
| 理科 | | | | | | |
| 保健体育科 | | | | | | |
| 芸術科 | | | | | | |
| 外国語科 | | | | | | |
| 家庭科 | | | | | | |
| 情報科 | | | | | | |
| 管理職 | | | | | | |
| | | | | | | |